



新創記念特別展 第1部

新・根津美術館展 ― 国宝那智瀧図と自然の造形

EXHIBITION: WELCOME TO THE NEW NEZU MUSEUM

2009年10月7日(水) — 11月8日(日)

新しい根津美術館では、開館から1年間、8つのテーマで当館を代表する名品の数々をご覧いただく「新創記念特別展」を開催いたします。

そのオープニングである第1部「新・根津美術館展」は、展示室1から6まで全てを使って2009年10月7日(水)から11月8日(日)まで開催いたします。もっとも広い展示室1では、特別企画「国宝^{なちのたきず}那智瀧図と自然の造形」を開催します。自然の崇高なる美を描いた名品、国宝「那智瀧図」を中心に、高雅な水墨山水画や華麗な花鳥図屏風などの絵画作品をご覧ください。続く展示室2では、「手を競う―王朝びとの筆のあと」と題して優美な古筆作品を、さらにホールから展示室3にかけては、仏教彫刻のジャンルから、中国の石彫、平安・鎌倉時代の木彫を展示いたします。

展示室4では、世界屈指といわれる青銅器コレクションの全貌をご紹介します。また、展示室5では、オープニングにふさわしく「吉祥」をテーマに、華やかな中国の陶磁器、漆工品をご覧ください。本格的な茶室の一部を組み込んだ展示室6では、時節に合わせた茶道具をお楽しみいただけます。その第一弾は、初代根津嘉一郎が大正7年(1918)に催した「初陣茶会^{ういじん}」に用いた茶道具の取り合わせを再現いたします。

開催概要

会期	2009年10月7日(水)―11月8日(日) 月曜休館 ただし10月12日(月)開館、翌日13日(火)休館／11月2日(月)開館
開催時間	午前10時から午後5時(入館は午後4時30分まで)
入館料金	一般 1,200円(1,000円) 学生 1,000円(800円) ()は20名以上の団体料金／小・中学生以下は無料
交通	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道」駅下車 A5出口より徒歩8分、B5出口(エレベーター)より徒歩10分
住所	〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号
問い合わせ	電話 03-3400-2536 ホームページ http://www.nezu-muse.or.jp

展示構成

展示室1 [企画展示] 国宝^{なちのたきず}那智瀧図と自然の造形

所蔵コレクションから選んだ、「自然」をモチーフにした絵画・工芸の名品展を開催します。聖地としての自然を描いた国宝「那智瀧図」を5年ぶりに公開するのをはじめ、理想郷を描いた室町水墨画の優品「観瀑図」(芸阿弥筆)、和歌の風景をあらわした「春日山蒔絵硯箱」や「吉野龍田図屏風」など、根津美術館の顔ともいうべき名品の数々を一堂に公開します。庭園で豊かな自然を、そして新しい展示室でその造形美を鑑賞していただく趣向です。



なちのたきず
国宝 那智瀧図
一幅 絹本着色
日本・鎌倉時代



かんぼくず げいあみ
重要文化財 観瀑図 芸阿弥筆
一幅 紙本墨画淡彩
日本・室町時代 文明12年(1480)



かすがやまきえすずりぼこ
重要文化財 春日山蒔絵硯箱
一合
日本・室町時代



よしのたつたず
吉野龍田図
六曲一雙 紙本金地着色
日本・江戸時代



展示室2 [書画] 手を競う—王朝びとの筆のあと

美しい紙にみごとな筆跡で書写した豪華な歌集は、王朝貴族にとってもっとも高級な贈答品でした。後世、そうした巻物や冊子は、分断されて古筆切こひつぎれとなり、掛物として鑑賞されてきました。古筆切の名品を通して王朝びとの感性に迫ります。



いしやまぎれ
石山切
一幅 彩箋墨書 日本・平安時代

ホール～展示室3 [彫刻] 仏教彫刻

吹き抜けのホールでは、ガンダーラや中国の石彫を展示します。展示室3では、これまで公開する機会の少なかった平安・鎌倉時代の仏教彫刻作品をご紹介します。



じゅういちめんくわんおんのかんぼさつりゅうぞう
重要文化財 十一面観音菩薩立像
一軀 石造 中国・唐時代

展示室4 [青銅器] 古代青銅器

根津美術館が所蔵する青銅器は、その美しさと希少さゆえに世界屈指のコレクションとして知られています。青銅器コレクション専用のギャラリーで、神秘性をたたえた優品をご紹介します。



とうつもんそうようそん
重要文化財 饕餮文双羊尊
一口 青銅製 中国・殷時代

展示室5 [工芸] 吉祥 明清の陶磁と漆工

明・清時代の陶磁器と漆工品にみる吉祥文様をテーマに展示します。古来、中国では、長寿や栄達を願い、花や鳥、動物、仙人といったモチーフがあらわされ、そこには吉祥の意味がこめられています。



とうさいりゅうほうもんおおぼん
重要文化財 豆彩龍鳳文大盤
一枚 中国・清時代

展示室6 [茶道具] ういじん 初陣茶会

本格的な茶室を備えた展示室6は、茶の美術の名品を展示いたします。大正7年(1918)、59歳の初代根津嘉一郎は、収集した美術品を用いて初めて自邸での茶会を催しました。開館にふさわしく、「初陣茶会」の名で知られるこの茶会を再現し、茶器と懐石の器の取り合わせをご覧ください。



ごしまるちやわん
御所丸茶碗
一口 韓国・朝鮮時代